

(1)

先日、テレビを見ていましたら大層驚かされました。小学生の子が色鉛筆やクレヨンの一本を指して「薄橙（うすだいだい）色」とか「ペールオレンジ」とか言うのです。『えつ？それって肌色の事でしょ？』と出演者は驚いていました。かくいう私もテレビの前で、『何だそりや！』と驚かされました。肌色という呼び名は今では使用されていません。といつても、小中学生の皆さんには、すでに常識かもしません。

●肌色つてどんな色？●●●●●

せん。日本では、肌の色に近いことからあの色には長い間「肌色」という名前が使われてきました。私自身も子どもの頃だけでなく、つい先日まで何の疑問も持たずに「肌色」と呼んでいました。

しかし、よく考えてみれば、あれは日本人の肌の色ですが、肌の色は国や地域によって違います。夏になれば日焼けした肌は、小麦色の肌だといつてました。そういうことを考えると肌色は一つではないのです。透き通った白色から褐色まで様々です。何でも二三十年くらい前から「肌色という呼び方をしているのは日本だけらしい」という事がささやかれて、ではどうしましょうか？世界ではどのように呼ばれているのでしょうか？と議論になり、「ペー



ル（薄い）オレンジ」つまり「薄橙（うすだいだい）」と呼称されるようになつたそうです。なるほどなど考えさせられます。

●無知と無智

考えさせられるとともに、「そこなことはどうでもいいじゃないか。私は

また肌色つて言うだろうな」と想像し

と見なされ恥をかくことになります。一方で「無智」という言葉があります。一般的には混同されることの多い単語ですが仏教では無知と言わず無智といふことを説きます。これは仏法の智慧がなく、世間の知識だけに振り回されているさまを表した言葉です。

●知恵と智慧

では、「知恵」と「智慧」はどう違うのでしょうか。両者は違うものだと識しなければ何事も右から左へ聞き流してしまいます。偏見や差別をしている自覚がないという所に問題の深さがあるのです。無知というのは知識がないという意味です。知識というのは情報と言い換えるても問題はないと思します。知識・情報がないと常識がないところが智慧は、計算をすることでも、頭の回転の早さを指すものではあ

りません。智慧は、真理を知るということです。違う言い方をすれば智慧は真か偽かを問うものであるといえます。そして仏教における智慧とは、仏さまの智慧を指します。要するに私達は真偽を判断するものを持ち合わせていない。そのことを仏様に教えてもらいうということです。智慧を持ち合わせず知恵で世を渡っていくものが私であり、もつと言えば損か得か頭を回転させながら計算をすることを知恵と呼ぶのだそうです。

●無智と不知と智者●●●●●

蓮如上人は「無智」とか「一文不知」という語句を使用して門弟に書簡（御文・御文章）を出されました。【末代無智の在家止住の男女たらんともがら

は：】と。末代無智とは言葉が穏やかではないです。末代までの恥という使い方をするように子や孫の代までみたいな意味合いで受け止める方もいらっしゃいますが、末代とは後世。前世・現世・後世の後世。死んでから後の世という意味です。いのちの問題です。

続けて「一文不知の尼入道なり」といふとも後世をしるを智者とすといへり】と続きます。「一文不知」とは文字一つも知らないという意味です。そのような者でも「後世をしる」を「智者」智慧ある人」というのです。ここで注目したいのが無智と不知と智者。文字一つも「知らない」という意味で不知を使い。しつかり「知」と「智」が使い分けられています。

後世をしるということは、私たち

が人間として生きていく上でまさに知るべきことであり、逆に言えばこのこと一つがはつきりすれば、生きていくのです。生きるということに執着するだけでなく、死を終わりだと、敗北だと嘆くことなく死んでいけるのです。

私たちは仏法に出遇えない限り後世を知るということができません。それは学問でも教養でもありません。私のいのちの問題は、とつくに解決はしていたのだ、阿弥陀さまが引き受けてくださっていたんだ。と聞かせていただきお念佛申す日暮らしに励みましょう。



十月の常例布教(ご法話)のご案内

宗祖親鸞聖人報恩講

○期日 十月十三日(火)深夜～

※期間は変更となります。
十六日(金)日中まで

○報恩講布教

北海道教区 空知南組 誓報寺

講師 天野廣海師

※現在、コロナ禍における状況を鑑み期間短縮等の対応を協議中です。詳しくは別に配布のご案内をご確認いただくか、お寺までお尋ねください。

○場所 小樽別院本堂

◎なお、報恩講修行に伴い期間中は月忌参詣をお休みさせていただきます。感染症対策の上、どうぞ報恩講にお参りください。

発行所

番号 047-0017

小樽市若松一丁目四番十七号
電話 (024) 232-0744
FAX (024) 232-0744
テレホン法話 179-14080
177-1616番

本願寺小樽別院